

10月国際長老訓練#2:目を覚まし準備して、主の二度目の、目前に迫った来臨のために、主によって用意を整えられる 12/14-20 **OL Summary: I. 「来臨(パルシーア)」**というギリシャ語は、「臨在(同在)」を意味します。キリストの来臨は、彼と彼の民が同在する時です。彼のパルシーアは、大患難の前に男の子と初穂が携え上げられることで始まり、大患難の終わりに彼と聖徒たちが共に地上に現れることで終わります。

II. 私たちは主の二度目の、目前に迫った来臨のしるしを見る必要があります: **A.** この時代の終わり(大患難の最後の三年半が始まろうとする時)の最大のしるしは、王国の福音が人の住む全地に宣べ伝えられることです。 **B.** 主の来臨のもう一つの大きなしるしは、いちじくの木によって表されているイスラエルが奇跡的に復興されて国家となったことです。信者にとって、このいちじくの木はこの時代の終わりのしるしです。 **C.** 主の二度目の来臨の日の前に、背教が起こり、そしてあの不法の者、反キリストが出現します/こうして私たちは、イザヤ5:20が虚偽を信じる者たちにおいて成就することを見ることができます。「災いだ、悪を善、善を悪と呼ぶ者たち。暗やみを光とし、光を暗やみとし、苦いを甘いと、甘いを苦いとす者たち!」 **D.** この時代の最後の三年半の大患難が始まろうとする時、反キリストは荒らす忌むべき偶像、すなわち彼自身の像を宮の中に設立して、人々にその像と彼自身の両方を拝ませます。これが示しているのは、主が再来する前に、神の宮が再建されるということです。 **E.** 洪水前のノアの世代を麻ひさせた邪悪な生活の状態は、主の来臨と大患難の前の、人の生活の危険な状態を描写しています。 **F.** 主の二度目の来臨のしるしは、彼の多くの信者が信仰に欠けることです。「人の子が来る時、地上に信仰を見いだすであろうか?」 **G.** 主の二度目の来臨のもう一つのしるしは、「不法がはびこるので、多くの人の愛が徐々に冷えてくる」ことです。 **H.** 終わりの時と主の二度目の来臨とのしるしは、過度に富を貯蓄することです。「あなたがたは、終わりの日に宝を蓄えてきました」。

III. 主によって取られるために、私たちは彼の目前に迫った来臨のために目を覚まし、彼の花嫁になるために用意し準備している必要があります。それは、私たちが大患難の前に携え上げられるためです: **A.** 携え上げの意味は、主の臨在の中へと取られることです。もし私たちが主の臨在の中へと取られようとするなら、私たちは今日、主の臨在の中にいなければなりません。 **B.** 私たちは主の出現(主の再来)を慕う者となるために、今日、主が私たちに出現すること、現れることを尊んでいなければなりません。 **C.** 取られる人は命において円熟しており、取られない人は円熟していません。円熟することは、生涯の事柄です。主の来臨のために、私たちは主を極みまで愛し、すべての事で彼の中へと成長することによって、自分自身を用意して、彼の出現の時に、円熟して携え上げられることができるようにしておく必要があります。 **D.** 携え上げられる準備をすることは、祈ることによって極みまでキリストで満たされて、私たちが命において成長し円熟するという事柄です。 **E.** 目を覚まし

ていることの意味は、注意し、油断せず、毎日、つまずく可能性に対して警戒していることです。目を覚ましている人は、自分に信頼しない人であり、自信を持っていない人です。 **F.** 主は盗人のように、彼を愛している人たちの所へひそかにやって来て、彼らを彼の宝として取り去ります。キリストは彼の信者たちに尊く、私たちの願いは、彼に私たちの無上の尊さ、私たちの宝としての彼ご自身で、私たちを満たし浸透していただくことです。それによって、私たちは尊ばれる人、さらには尊さそのものとさえなります。 **G.** 特に、これらの終わりの日に、私たちは夜が明けて明けの明星が私たちの心に昇るまで、預言者の言を、暗い所に輝くともし火のように、よくよく心にとめていする必要があります。わずかしかない日々、私たちは主を愛し、主に仕える者となり、日々復興され、勝利する者となりましょう。そしてこの世を過ぎゆかせて、準備し、心を尽くして主の二度目の来臨を待ち望む者となりましょう。 **IV. マタイ25:1~13の主の言葉は、目を覚ましていることのとえです:** **A.** 処女は、命の面から見た信者を表徴します。王国の民である信者は貞節な処女に似ており、暗い時代に主の証し(ともし火)を携え、この世から出て行って主を迎えます。このために彼女たちは、聖霊の内住だけでなく、聖霊の充満をも必要とします/信者たちは、彼らの霊の内側から神の霊の光を輝かせます。神聖な光が人の内側の各部分を照らすために、油としての神の霊が、灯心としての人の霊にしみ込み(ミングリング)、人の霊と共に「燃え」なければなりません/こうして信者たちは世の光となり、この時代の暗やみの中でともし火のように輝き、主の証しを担って神の栄光を現します。 **B.** 「愚かな者たちは、自分のともし火を持っていたが、油は持っていなかった。しかし、思慮深い者たちは、自分のともし火と共に、器に油を持っていた」。 **C.** 油を得る、すなわちその霊をさらに多く受ける最も良い方法の一つは、神の言葉を思い巡らすことによって、祈りの霊と雰囲気の中で彼と親密な交わりを持つことです。 **D.** 「愚かな者たちは思慮深い者たちに言った、『あなたがたの油を少し下さい。私たちのともし火が消えそうですから』。しかし、思慮深い者たちは答えて言った、『私たちとあなたがたのためには、おそらく十分でないでしょう。それよりも、売る者たちの所に行って、自分のために買いなさい』」。 **E.** 愚かな処女たち、すなわち器の中に油を持っておらず、主イエスが来る時に準備をしていない人たちは、婚宴にあずかり損ねます。私たちが早く携え上げられて婚宴に入るかどうかは、私たちが日ごとにその霊を買っているかどうかにかかっています。 **F.** 目を覚ましていることは、一日中その霊で満たされていることです。もし私たちがその霊に私たちの全存在に浸透していただくなら、私たちは目を覚ましている人であり、主の二度目の来臨のために自分を準備し、主によって用意を整えられつつあります。 **G.** 私たちは毎日、目を覚まして、代価を払って金の油としてのその霊を買う必要があります。それによって私たちは、その霊をもって諸召会に供給して、イエスの証しとならせ、また主の褒賞を得て、小羊の婚宴にあずかります。

CP1:この時代の終わりの最大のしるしは、王国の福音が人の住む全地に宣べ伝えられることである

マタイ 24:30 その時、人の子のしるしが天に現れる。そして地のすべての部族は嘆き悲しみ、人の子が力と大なる栄光をもって、天の雲に乗って来るのを見る。

OL1:この時代の終わり(大患難の最後の三年半が始まろうとする時)の最大のしるしは、王国の福音が人の住む全地に宣べ伝えられることです。14 そしてこの王国の福音は、すべての民に対する証しのために、人の住む全地に宣べ伝えられる。それから終わりが来る。

OL2:主の来臨のもう一つの大きなしるしは、いちじくの木によって表されているイスラエルが奇跡的に復興されて国家となったことです。信者にとって、このいちじくの木はこの時代の終わりのしるしです。32-33 しかし、いちじくの木からたとえを学びなさい。その枝がすでに柔らかくなり、葉を出すようになれば、夏の近いことがわかる。そのようにあなたがたも、これらすべての事を見たなら、それは戸口まで近づいていると知りなさい。

主のバルシーアは、大患難の始まる前に主が勝利者を天に携え上げて彼と共にいるようにされる時に始まります。この時に始まって、主のバルシーア、すなわち、主の来臨は彼の出現が現されるまでの三年半の間、続きます。この出現…あるいは現されることは、聖書が主の来臨(バルシーア)の出現(エピファネイア)と呼んでいるものです。主の戻って来られることは、ある期間、バルシーア(来臨)と、ある時点、「エピファネイア(出現)」を含みます。

王国の福音は、恵みの福音を含んでおり、それは人々を神の救いにもたらすだけでなく、天の王国へもたらします。恵みの福音は、罪の赦し、神の贖い、永遠の命を強調しますが、王国の福音は、神の天的支配と主の権威を強調します。この王国の福音は、この時代の終わりが来る前、すべての民に対する証しのために、全地に宣べ伝えられるでしょう。ですから、啓示録 6:1~2 の第一の封印の白い馬で表徴されるこの宣べ伝えは、この時代の満了のしるしです。

全世界への王国の福音の宣べ伝え…が達成された時、私たちは、最後の三年半が始まろうとしていることを認識すべきです。…この福音の宣べ伝えの前に、他の多くの事が起こるでしょう。しかしこれらの事は、この時代の終わりのしるしではありません。なぜなら、主はそれらについて語った時、まだ終わりではないと言われたからです。ですから、王国の福音が人の住む全地に宣べ伝えられることが、この時代の終わりの独特なしるしです。

いちじくの木はイスラエルの国を表します。マタイ 21:18~20 において、イスラエルの国の象徴であるいちじくの木は主によってのろわれ、枯れてしまいました。なぜなら、それは彼のために実を生み出さなかったからです。ユダヤ人は自分たちの国を失い、散らされました。しかしながら、聖書の予言によれば、ユダヤ人は自分たちの国を回復します。いちじくの木が柔らかくなり、葉を出すようになることについての主の言葉は、この事柄を指しています。

適用:新人及び青少年・大学生編

FN「証し」:王国の福音は、すべての民(異邦人)に対

する証しです。この証しは、この時代の終わり、大患難の前に、全地に広がるに違いありません。

新人と若者の皆さんは、今の時代が終わりの時代に近づいていることを認識して、王国の福音をあなたの周りの人に宣べ伝える負担を持ち、このために祈り、兄弟姉妹と共に実際に福音の宣べ伝えに出て行ってください。

科学は、地球の温暖化がこのまま進むと、2100年には北極が消滅し、生態系が急激な変化に追いつかなくなると警告しています。この時代の最後が来る前の最大のしるしは、王国の福音が人の住む全地に宣べ伝えられることです。王国の福音はおもに、地方召会によって宣べ伝えられなければなりません。なぜなら、王国の福音は神のエコノミーの福音であり、神の天的支配と主の権威を強調します。19世紀後半のイギリスによって、「罪の赦しを強調する恵みの福音」は全地に宣べ伝えられました。しかし、王国の福音はまだ十分に宣べ伝えられていません。それは、回復訳聖書とライフスタディ等の務めの言葉を通して、神のエコノミーを理解し、キリストのからだを建造している地方召会の兄弟姉妹によって宣べ伝えられなければなりません。

この予言が成就されるために、①地方召会が繁栄し、開展して主要な都市に設立されること、②地方召会の兄弟姉妹が立ち上がり、王国の福音を日本に住む全ての人に証しすること、③若者たちが立ち上がり、召会の証しを継続し、増強することが必要になります。神戸に在る召会は、全員が立ち上がって王国の福音を宣べ伝え、主日の集会の人数を185名(2020年9月~11月の平均)から200~300名に、更に500名へと拡張しなければなりません。また、主要な近隣の都市、西宮市、尼崎市、明石市、姫路市などに展開していかなければ、福音に関する予言を成就することはできません。

人には、罪の問題の解決と神の人に対するみこころ(神を団体的に表現し、代行すること)があります。罪の問題について言うと、「善い行いをする事」、「教育」、「道徳」、「お経を読むこと」、「仏壇を拝むこと」は、人を罪から救うことはできません。なぜなら、血を流すことなしに罪の赦しはあり得ないからです。主は、人の罪のために、罪のない方として人の身代わり十字架で血を流し死なれました。ですから、主の中に信じて、主と結合される者は罪が赦され、キリストの義で覆われます。

神のみこころについて言うと、人はキリストを享受し、彼で満たされて、召会生活の中で兄弟姉妹と共に、キリストを大きく表現し、神の権威を代行して神の敵サタンを支配する必要があります。

この王国の福音を親戚、友人、隣人に伝える負担を持ち、祈ってください。主の予言が成就するために祈る時、聖霊が働き始めます。そして福音のために行けば、あなたは神の同労者となり祝福されます。

祈り:「おお主イエスよ、今の時代は終わりの時代に近づいていると私も感じています。今この時に、王国の福音を私の周りの人に、また私たちが住む神戸市、西宮市の人々に、宣べ伝える負担を持ちます。このために兄弟姉妹と共に祈り、実際に福音の宣べ伝えに出て行きます。私を霊で満たし、強めてください。召会の証しを継続し増強するために、私たち若者を、主の再臨をもたらす、時代を転換させる器として成就してください。」

CP2: 主の再臨の別のしるしは、不法がはびこることである。

目を覚まし準備して、大患難の前に携え上げられる

OL1: 主の二度目の来臨の日の前に、背教が起こり、そしてあの不法の者、反キリストが出現します。IIテサロニケ 2:3 まず背教が起こり、そしてあの不法の者、すなわち滅びの子が出現しなければ、それは来ないからです。7 なぜなら、不法の奥義がすでに働いているからです。

OL2: 主の二度目の来臨のもう一つのしるしは、「不法がはびこるので、多くの人の愛が徐々に冷えてくる」ことです。

OL3: 終わりの時と主の二度目の来臨とのしるしは、過度に富を貯蓄することです。**OL4:** 主によって取られるために、私たちは彼の目前に迫った来臨のために目を覚まし、彼の花嫁になるために用意し準備している必要があります。それは、私たちが大患難の前に携え上げられるためです。啓3:10 あなたは私の忍耐についての言を守ったから、私も、地上に住む者たちを試すために人の住む全地に臨もうとしている試練の時から、あなたを守る。

IIテサロニケ2:4によれば、「聖なる場所」は神の宮を指しています。反キリストは荒らす忌むべき偶像、すなわち彼自身の像を宮の中に設立して、人々にその像を拝ませます。これはエルサレムの宮が再建されることを示しています。最後の三年半の大患難が始まろうとする時、反キリストは自分の像を宮の中に設立します。これが起こる時、主の二度目の来臨の日は非常に近いのです。

IIテモテ3:1~5は、この時代の終わりの人の社会の状態を述べています。ここで語られている事はそれぞれ、主の二度目の来臨のしるしと呼ばれることができます。…終わりの日に、人々は最も自分を愛し、金銭に密接に付きまとわれます。…また誇ること、傲慢、ののしること、神を冒とくすることがあります。…彼らはみな、自由という名の下で無謀に、傲慢に事を行ないます。神を愛する者であるのではなく、快楽を愛する者であることも、今日の人々の特徴です。…これらはみな主の二度目の来臨のしるしであり、それらは主が来られるために私たちが目を覚まして準備していなければならないことを私たちに思い起こさせるべきです。

主の目前に迫った来臨の前には、明確なしるしがあるでしょう。この期間に、人々はかつてないほどに富を蓄えるでしょう。…主が再来される直前の時代ほど、富を見る時代は他にないでしょう。物質的な享受が増大するだけでなく、情欲に満ちた放縦も増大します。私がこのことを語っているのは、世界中のすべての兄弟姉妹に、主の日が近づいていることを知らせるためです! 私たちは、金銭がまだ役に立つ間に、私たちが持っている物をすべて、主のために使わなければなりません。

取られるとは、大患難の前に携え上げられることを意味します。…二人の人が畑で働いており、二人の女がうすをひいているのを見るのは非常に興味深いことです。畑で働くこともうすをひいていることも、食べるためです。私たちの食べることと、この世の人の食べることの違いがあります。この世の人々は勉強し働き、私たちも勉強し働きます。しかしながら、この世の人は麻ひさせられています。私たちは…むしろ、単に生計を立てるために義務を果たしているだけです。…私たちが生存を維持するのは、十字架の道を取って、神の定められた御旨を成就するためです。

適用: ビジネスパーソン・大学院生編

IIテモテ 3:1 終わりの日に困難な時が来ることを、知っておきなさい。2 なぜならその時、人々は自己を愛する者、金銭を愛する者、誇る者、傲慢な者、ののしる者、親に逆らう者、感謝することを知らない者、聖くない者、3 無情な者、和解しない者、中傷する者、自制心が無い者、粗暴な者、善を愛さない者、4 裏切る者、無謀な者、高ぶって盲目になっている者、神を愛するより快楽を愛する者、5 敬虔を装いながら、その力を否んでいる者となるからです。これらの者たちから離れ去りなさい。

Iテモテ 6:6 しかし、敬虔があつて満ち足りることは、大きな利得です。7 なぜなら、私たちは何一つこの世に持って来なかったし、また何一つ持ち出すことはできないからです。8 むしろ、食物と身を覆う物があれば、それで満足すべきです。9 ところが、富むことを願っている者は、誘惑とわなと、多くの愚かで有害な願望とに落ち込むのです。それは、人々を破壊と滅亡に投げ込みます。10 というのは、金銭を愛することはあらゆる悪の根だからです。ある人は金銭を熱望したために、その信仰から迷い出てしまい、自分自身を多くの苦痛で刺し通しました。

ビジネスパーソンであるあなたは、金銭愛に陥り信仰から迷い出ないように注意してください。あなたは額に汗して、勤勉に働き、自分の義務を果たすべきです。それは、家族を経済的に支えるためだけでなく、人の生存の目的である「王国の福音を伝え、新人を養い、召会を建造する」のためであるべきです。決して金持ちになり、贅沢したいと考えてはいけません。この邪悪な願望はあなたを滅亡させ、破壊するのです。

あなたは会社で、主の証しのために可能な限り出世して、より多くの財物をささげてください。しかし、金銭愛が動機になってそうしようとしてははいけません。また、主に与えられた尺度の度量に従うべきです。主の制限の下で、キャリア・プランを立てるべきであり、情欲に従って無制限に発展しようとしてははいけません。主があなたを専門職に留めるなら、そうしてください。主のあなたに対する尺度は、専門職、あるいは Manager、あるいは Director、あるいは役員、あるいは社長かもしれません。どちらにしても、あなたは主の尺度の度量にしたがって前進して、祝福されることを学んでください。

IIコリント 10:13 しかし、私たちは自分の度量を越えて誇るとうはしません。むしろ測りなわの神が、私たちに割り当ててくださった尺度の度量にしたがって、遠くあなたがたにまで到達することを誇ります。FN「度量」:使徒は大胆でしたが、限度を越えていませんでした。これは、彼が主の制限の下にあったことを示します。彼が誇ることは、測りなわの神、統治する神が、彼に割り当てられた尺度の度量にしたがっていました。祈り:「終わりの時代に、この世の人々はかつてないほど金銭にとらわれ、富を蓄えています。しかし主にある私は自分の義務を果たすために勤勉に働き、主から与えられた度量に従い、できる限り上を目指します。それは家族を経済的に支えるだけでなく、召会の経済的な必要を支えるためです。私が不法の奥義に従って、金銭愛に陥り、信仰から迷い出ることがないようにしてください。私は恵みを取って、十字架の道を取り、神の定められた御旨を成就します」。

CP3: 主の再臨に備え、キリストをパースンとし、

代価を払って油を買い、器に油を蓄える

マタイ 25:1 その時、天の王国は、十人の処女が自分のともし火を持って、花婿を迎えに出て行くようなものである。4 しかし、思慮深い者たちは、自分のともし火と共に、器に油を持っていた。8 ところが、愚かな者たちは思慮深い者たちに言った、『あなたがたの油を少し下さい。私たちのともし火が消えそうですから』。10 買いに出かけている間に、花婿が来た。そして、その用意のできている人たちは、彼と共に婚宴の中に入った。そして戸が閉められた。

私たちはだれも、主が来られる日や時を知りません。…命の中で目を覚ましていないなら、あなたは経綸上の罰を受けます。…私たちは主に会うために何をすべきでしょうか？ 私たちは用意していなければなりません。私たちは、最も喜ばしい方として、花婿として私たちに来られる方を迎えるために出て行く処女です。この厳粛なマタイによる福音書の中で、主は私たちにいつ来られるか知らせようとしませんでした。主が私たちに知らせないのは、私たちが目を覚ましていて、いつでも自分自身を訓練し続けなければならないことを意味します。

私たちはみなこの世から出て、輝く証しとして、ともし火を携えて、花婿を迎えます。…このともし火は、明るく輝いているべきです。ですから、それには油が必要です。予表で、油は神の霊を表徴します。私たちは燃えている油としてのその霊が必要です。私たちは出て行って、輝く証しを担いつつ主を迎えます。ですから、私たちは燃えている油、燃える霊を必要とします。ともし火と共に、器があります。愚かな者たちには、ともし火である彼らの霊の中に油がありますが、器である魂の中に余剰の油がありません。私たちは、主を迎えるために出て行き、神の証しを担う状況の中にいるべきです。このような目的のために、私たちはより多くの油、より多くの霊を必要とするので、油を買わなければなりません。この余剰の油は、あなたに賜物として与えられることは決してありません。あなたはそれを無代価で得ることは決してできません。あなたは油を買う必要があります。

あなたの存在に聖霊の余剰を蓄えることは、一夜でできる仕事ではありません。…物事を修得し、正しい人として構成されるのは、一日の事ではなく、一年の事でさえありません。一生涯にわたって日々行なうべき事です。

マタイ 25:8 [は示していますが]…復活の後、愚かな信者たちは、自分たちに神の霊が不足していて、神の霊の満たしを必要とすることに気づきました。…彼らの器、彼らの魂、彼らの存在の中には、その霊の余剰がありませんでした。それから、愚かな者たちは、思慮深い者たちに少し油を与えて助けてくれるように頼みました。「しかし、思慮深い者たちは答えて言った、『私たとあなたがたのためには、おそらく十分でないでしょう。それよりも、売る者たちの所に行って、自分のために買いなさい』(25:9)。私たちは、すべての信者たちが復活した後、このような会話がされることを忘れるべきではありません。[多くの信者たち]…は、その生涯の間、いつもその霊に不足していたにもかかわらず、彼らは酔いつぶれて無感覚でした。彼らが復活した後、自分の不足に気づくでしょう。しかし、あまりにも遅いのです。

適用: 奉仕者編

25:4FN「器に油を持っていた」:人は神のために造られた器であり、人の人格は彼の魂にあります。ですから、ここの「器」は、信者たちの魂を象徴します。五人の思慮深い処女は、ともし火に油があっただけでなく、器に油を持っています。ともし火に油があるとは、彼女たちが神の霊を自分の霊に内住させていることを表徴します。器に油を持っているとは、彼女たちが神の霊の充満を持ち、彼女たちの魂に浸透することを表徴します。10FN「その用意のできている」:私たちは常に器に油を持ち、全存在が常に神の霊で満たされていることによって、用意しているべきです。目を覚まして用意していることは、主の来臨(パルーシア)に対する私たちの日ごとの実行であるべきです。9FN「十分でない」:だれも聖霊の充満を、他の人のために持つことはできません。

25:11 その後、残りの処女たちも来て、『主よ、主よ、開けてください!』と言った。12 しかし、彼は答えて言った、『まことに、私はあなたがたに言う。私はあなたがたを知らない』。12FN「私はあなたを知らない」:ここで「知らない」とは、ルカ13:25のように、「認めない」、「よしとしない」という意味です。愚かな処女たちは、ともし火をともし火を携えて、主を迎えに出て行き、死んで、復活させられ、携え上げられました。しかし彼女たちは、代価を払って聖霊に充満されるのが遅かったのです。このために、主は彼女たちが婚宴にあずかることを承認せず、よしとされませんでした。彼女たちはこの経綸上の褒賞を得そこないましたが、救いを永遠に失ったものではありません。

あなたは奉仕者として、勤勉に奉仕すると同時に、命の成長を追い求める必要があります。主に心を開いて、聖霊が再生された霊から魂の各部分に広がるようにする必要があります。言い換えると、キリストを命の享受とするだけでなく、魂のパースンを否みキリストをパースンとする必要があります。自分の魂に従って物事を決定するのではなく、キリストをパースンとしてキリストに従って、キリストを生きるべきです。多くの場合、あなたは自分がどう感じるかを顧慮しますが、主がどう感じるのかを顧慮しません。自分が行きたいかどうかではなく、キリストが行くかどうかを顧慮して、キリストをパースンとすることを学んでください。そうすれば、器である魂に油を蓄えることができます。

例えば環境の変化に対応するために、奉仕のアレンジメントを変更する必要があります。あなたは自分が「好きか嫌いか」、あるいは「自分が得するのか、又は損するのか」ではなく、主があなたの中でどうしたいのかを尋ね求め、キリストを実際的にパースンとすることを学んでください。油を買うとは、魂のパースンを否み、キリストをパースンとすることです。それはまた主に完全に開いている器として、主を受け入れることです。

祈り:「マタイ25章の五人の思慮深い処女のように、神の霊の充満を持ち、魂に浸透させ、ともし火と共に器に油を持つことができますように。キリストを命の享受とするだけでなく、自分の魂のパースンを否みキリストをパースンとしなければ、器に油を蓄えることができません。自分の魂に従って物事を決定するのではなく、キリストをパースンとしてキリストに従って、キリストを生き、主の再臨の時のために備えることができますように。」